

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 三重県グリーンな水田農業推進協議会
都道府県 三重県
対象地域 桑名市、四日市市、菰野町、鈴鹿市、津市、松阪市
玉城町、志摩市、伊賀市、紀宝町
対象品目 水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県の稲作のうち約 8 割で使用される緩効性肥料のプラスチック被膜殻のほ場外への流出、近年の異常気象による病害虫の発生、農業者の大規模化による水管理や畦畔管理などのほ場管理作業負担増大の問題解決に向け、環境にやさしい技術と省力化技術を組み合わせることで環境負荷を低減した持続可能な水田農業を確立する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	「栽培マニュアルに記載のとおり」												
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	「栽培マニュアルに記載のとおり」												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	380	▶ 600	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1	▶ 30	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	2.4	▶ 60	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1	▶ 30	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬	▶ 耐病性品種 生育予測システム	農薬使用回数減
環境	プラスチック被覆肥料	▶ プラ減肥料 非プラスチック被覆肥料	プラスチック使用量減
環境	化学肥料	▶ 有機肥料	化学肥料使用量減
省力	動力散布機	▶ ドローン施肥 流し込み施肥	労働負担低減 作業時間減
省力	ほ場見回り	▶ 水田センサーによる水位確認	労働負担減 作業時間減
省力	アシストスーツ無	▶ アシストスーツ	労働負担減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	生育予測システムの導入面積(ha)	10	▶ 30	
環境	耐病性品種の導入面積(ha)	0.8	▶ 20	
環境	非プラスチック被覆肥料及び分施体系によるプラスチック使用量の低減面積(ha)	0.4	▶ 5	
環境	有機肥料の利用面積（有機肥料利用）(ha)	0.4	▶ 5	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

策定した産地戦略と栽培マニュアルをもとにグリーンな栽培体系を各産地で拡大する。

関係者の役割

関係者名	三重県（普及組織）	J A全農みえ	農業研究所	農業者
役割	各技術支援 グリーンな栽培体系の普及	グリーンな栽培体系の普及 取組内容の実需への周知	各技術支援	グリーンな栽培体系の実践